

# 少年

第444号(1) 令和5年3月(弥生)発行



山梨県警察本部  
生活安全部 少年・女性安全対策課  
甲府市丸の内1-6-1  
055-221-0110 内線3082  
少年対策官 北原宏明

## 群青の絆

3月は年度の終わりが近づき、何かと寂しさが漂う季節である。それと同時に、門出を迎える慶びの季節でもある。卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。今月の13日からはマスクの着用が個人の判断に委ねられるなど制限の緩和が進んでいるが、ここ3年の間はコロナ禍でさまざまな学校行事や部活動が制限され、思うようにいかないことも多々あったことだろう。しかし、コロナ禍に翻弄されながらも諦めずに仲間や先生方とアイデアを出しあい、新たな形を創造することで難局を乗り越えた経験は、諦めないで努力し続けることの大切さを教えてくれたのではないだろうか。そして、共に過ごした仲間、支えてくれた先生、家族の存在は心を強くし、勇気を与えてくれたのではないだろうか。学校生活の中で得たものや支えてくれた人への感謝の思いを胸に、自らが選んだ新たな「道」を信じて力強く歩んでほしい。そして、その「道」をぜひ楽しみながら歩んでほしい。

多くの学校では、卒業式に卒業生や在校生による合唱が披露される。卒業した年代によって卒業式で歌った合唱はさまざまであろうが、皆さんには思い出に残っている歌があるだろうか？以前、中学校で教員をしていた私には、卒業式に歌う予定で準備を始めた矢先にコロナ感染状況の悪化により歌うことができなかった「忘れられない歌」がある。それは「群青」という歌だ。私は「群青」を聞いた時、生徒とともに過ごした日々や生徒たちの顔をふと思い出す。元気でやっているだろうか。

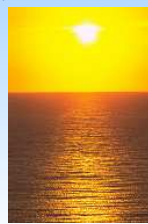
### 群青

ああ あの町で生まれて  
君と出会い  
たくさんの思い抱いて  
一緒に時を過ごしたね  
今 旅立つ日  
見える景色は違って  
遠い場所で 君も同じ空  
きっと見上げているはず



「またね」と 手を振るけど  
明日も会えるのかな  
遠ざかる君の笑顔 今でも忘れない

あの日見た夕陽 あの日見た花火  
いつでも君がいたね  
あたりまえが 幸せと知った  
自転車をこいで 君といった海  
鮮やかな記憶が  
目を閉じれば 群青に染まる



あれから2年の日が  
僕らの中を過ぎて  
3月の風に吹かれ 君を今でも思う

響け この歌声  
響け 遠くまでも  
あの空の彼方へも  
大切な すべてに届け  
涙のあとにも 見上げた夜空に  
希望が光ってるよ  
僕らを待つ 群青の町で

きっと また会おう  
あの町で会おう  
僕らの約束は  
消えはしない 群青の絆

また 会おう 群青の町で・・・

この歌は東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県南相馬市にある<sup>おだか</sup>小高中学校で当時音楽を担当していた小田美樹先生によってつくられたものだ。小高中学校では津波で生徒4人が犠牲になり、福島第一原子力発電所の事故の影響で震災前には106人いた1年生は日本中に散り散りとなり、4月に学校を再開したときには7人になっていた。小田先生はその生徒たちの日々のつぶやきを記録しつつ、そして、震災当時1年生だった生徒たちの卒業に際して、今まで記録してきたつぶやきをつなぎ合わせて歌をつくった。それがこの「群青」である。「群青」は小高の海の色であり、小高中学校のみんなの絆の色を表しているようだ。(参考図書：「新中学生の道徳 明日への扉2」〔学研〕)

「群青」の歌詞の中に「あたりまえが 幸せと知った」というフレーズがある。このことをコロナ禍を通して痛感した方もいるだろう。卒業すれば、約束しなくても友と学校で会うことができた「当たり前前の幸せ」は失われ、事前に約束しない限り会うことができなくなる。友との絆が深ければ深いほど会えなくなる悲しみは深く、時にはさみしくなることもあるだろう。でも、毎日会えないことを不幸だと悲しむことはない。たとえ違う景色を見て生活することになったとしても、今まで時間をかけて友と築きあげた深い絆はたやすく消えはしない。違う景色の上に広がる空が繋がっているように、友との深い絆は目には見えないけれど繋がっている。これからはずっと・・・。

## 春休みの少年非行防止に努めよう



卒業、進級、進学、就職……「春休み」は、少年の生活環境が大きく変わる時です。新しい生活への期待感、不安感、そして開放感が交錯する中、ともすると生活のリズムが乱れがちになります。飲酒、喫煙等の不良行為、さらにはSNS利用によって被害に遭う少年も少なくありません。家庭、学校、地域が連携し、少年の非行等の防止に向けた取組を推進していきましょう。

### 【家庭で】

- 規則的な生活習慣
- 小さな変化を見逃さない
- 子供との会話
- 学校からの注意事項の確認
- スマホに振り回されないルールづくり

### 【学校で】

- 不良行為防止のための事前指導
- 家庭及び関係機関との連携
- ネットモラル、マナーに関する指導

### 【地域で】

- あいさつ運動
- 安全に関わる情報を共有し、迅速な対応
- 関係機関と協力し、有害環境の浄化

## 「春のあんしんネット・新学期一斉行動」 令和5年2月～5月 実施

多くの少年が初めてスマートフォン等を手にする、春の卒業・進学・進入学の時期(2月～5月)に特に重点を置き、県や市町村、関係団体が連携、協力し、「春のあんしんネット・新学期一斉行動」として、スマートフォンやSNS等の安全・安心な利用のための啓発活動等の取組を集中的に展開しています。

ペアレンタルコントロールの普及促進(フィルタリングの利用や話し合いによる家庭内ルール作り等)や少年がインターネットを適切に活用する能力の向上に重点を置いた諸活動を推進することとしています。皆様のご協力をお願いいたします。



## 保護者が知っておきたい4つの大切なポイント

### Point① 時間の長さだけではなく中身に着目

何にどのくらいつまっているのかを、一緒に確認しましょう

学習での活用も増え、子供のインターネット利用時間はより一層長くなっています。「いつまでやってるの!?'と頭ごなしに叱らず、子供がどんな使い方をしているのか、時間だけではなく、内容を把握することが大切です。

### Point② ゲームプレイは“個”から“グループ”へ

保護者と一緒にプレイしなくなる時期こそ、しっかり見守る

一人で、リアルな友達と、ネット上のグループで協力しながら等、ゲームは多様な遊び方があります。高額課金やID乗っ取り等のトラブルだけではなく、誘う・誘われない、アイテムをもらった・もらわなくてもめたり、一人抜けできず長時間プレイになったりといったことも生じています。また、プレイ中のチャットや音声でのやり取りから、個人情報が出たり、誘い出しのきっかけになってしまうこともあります。保護者は、子供がどんなゲームをしているか知っておくとともに、対象年齢に達しているかを確認したり、スマホやゲーム機のペアレンタルコントロール機能を活用したりして、子供の安全利用を見守りましょう。

### Point③ SNS等でのいじめや誹謗中傷、どう対処すべき?

相談しやすい親子関係をつくり、話ほじっくり聞いてあげる

子供が一人で悩みを抱えないためにも、普段から「困ったら何でも相談にのるよ」と声かけをしましょう。そうすると子供は相談しやすくなります。

相談されたときには、子供の話をじっくり聞いてあげてください。保護者が大騒ぎしてしまうと、相談しにくくなってしまうこともあります。じっくり聞いたうえで「どうしたい?」と聞いてあげましょう。

### Point④ 動画や写真は危険がいっぱい

動画や写真の投稿で注意すること

面白がって撮ったり、友人・知人の情報が含まれるものを投稿することで、不快感やトラブルを生むこともあります。どんな投稿がトラブル原因になるか親子で考えてみましょう。

写真や動画の投稿サービスやアプリの多くは中学生以上が対象。年齢に満たない子供の投稿は、保護者のアカウントで一緒に行うようにしてください。

**フィルタリングは必ず設定しましょう!!**

SNS上で被害に遭った児童の約9割が、被害時にフィルタリングを利用していませんでした。フィルタリングには子供の年齢等に応じて利用時間を設定したり、アプリケーションの利用を個別に許可または制限することができる機能もあります。また携帯電話機だけではなく、タブレットや携帯ゲーム機等の子供が利用する機器に応じた適切な管理が重要です。子供に携帯電話機等を持たせる場合は子供を犯罪から守るためにも保護者の皆様が積極的にフィルタリングの設定をしてあげましょう。

